

科学技術イノベーションの戦略的国際展開に関する検討資料

平成27年9月4日

内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）

（1）国際的な科学技術推進

我が国が目指すべき国際活動は、研究環境の国際化に伴い、海外の優れた研究者、産業界等との交わりにより、新たな研究概念の創出とイノベーションを加速し、新たな産業の創出、競争力の強化、地球規模での研究促進、経済成長等への貢献。

① 世界動向の把握と科学技術予測

世界的に将来の不確実性が高まる中、エネルギー、人口動態、資源問題など地球規模課題の解決に向け、国際連携・協力を念頭に置いたフォーサイトによる技術予測や横断的に長期的な変化を探索するホライズンスキヤニングを活用し、国際的な科学技術及び産業振興を促進。

② 新たな戦略的パートナーシップの構築

i) インクルーシブ・イノベーション[※]の推進

新興国・途上国との科学技術協力において、双方向の知の交流により、相互に有益な関係を構築するインクルーシブ・イノベーションの展開によるWin-Win-Win（国-国-科学界・産業界）の形成等。

※経済的ピラミッドの底辺に存在する人々も含めた社会全体に対して、長期にわたり、かつ持続可能な状態で、生活に必要な質の高い製品やサービスを提供するためのイノベーション。科学技術を活用し、ビジネスモデルを構築する手法が多く用いられている。

ii) 世界最先端分野での協力強化

国際的に優先度の高い課題の世界最先端の研究領域において、我が国の存在感の維持向上と、我が国の強みを活かした地球規模での研究推進を確実に実施するため、各国政府、研究機関、資金配分機関等との協力・協調強化等。

(2) 科学技術外交の戦略的展開

科学技術外交には、「外交のための科学技術」と「科学技術のための外交」という二つの側面があるが、グローバル社会において、日本が存在感を高め、多面的な科学技術外交を展開していくために、二分法ではなく、両者の相乗効果を生む出すことを目指す。

① 日本の顔が見える科学技術外交（日本の抱える課題と国際貢献）

エネルギー・資源・食料の制約や、少子高齢化・人口減少など我が国が抱える課題に関する質の高い研究成果の世界に向けた発信等による日本のプレゼンス・信頼の向上。

② 国際会合等の活用と国際組織との連携強化

G7(G8)科学大臣会合、OECD/CSTP会合、カーネギー会合等の国際会合及び二国間会合等並びにOECD、ユネスコ、国際科学会議（ICSU）等の国際組織の積極的活用による国際的取組を主導。

③ 国際的な情報発信

i) パブリック・ディプロマシーの活用と広報活動

科学技術分野において外国の国民や世論に直接働きかける外交活動である「パブリック・ディプロマシー」の積極的活用。また、在日の各国大使館の科学技術アタッシェで形成する「ディプロマシー・サークル」の枠組を対外発信の観点から積極的に活用。

ii) 国際賞、国際学会等への協力・貢献

日本国際賞、京都賞等の国際賞や国際学会等を通じた、我が国の科学技術、文化、経済力の発信。